

山行報告書

報告書作成

2005年5月12日

山名 [山域]	立山山岳スキー	目的と方法	山岳スキーと雪山生活を楽しむ
登山期間	2005年4月30日(土)～5月1日(日)	山行形態	1泊2日(雷鳥沢テント泊)
参加人数	6人		

行動記録

4/30(土)旧岡崎市民病院PKG(5:10)==岡崎IC=豊田東=美濃関=清見IC(4350円)(7:05)=158号バイパス高山西出口(7:10)=41号==
 立山駅(9:30,11:40)==美女平==室堂ターミナル2450m(2580円+板300円+ザック300円)(12:45,13:00)--雷鳥沢キャンプ場
 5/1(日)雷鳥沢TS1(5:00起床6:30)シル着--一ノ越小屋2705m(8:30,9:00)シル脱--東一ノ越2470m(9:35,45)--タンボ平--黒部平
 1830m(10:35,55)--黒部湖畔沿岸道(11:25,35)--黒部湖ケーブル駅1455m(12:00,12:20)--黒部平駅(12:30,40)--大観峰2316m
 (12:50,13:00)==室堂ターミナル2450m(13:15,35)--雷鳥沢キャンプ場(14:06,45)--室堂ターミナル(15:50,17:00)==美女平977m

概念図



日誌

4/29の岡崎は晴れなのに後で聞くと現地立山は雨だったそうだ。4/30本日星空で快晴です。岡崎5:10エスティマに6人分(20kg×6人)の荷物を積込み、少し窮屈だが6人で出発。和気あいあいの楽しいドライブ。立山駅に着くと、すぐ1人が切符を買いに行ってもらおう。「A」:ケーブル乗車、美女平経由、室堂行きは3時間待ち。「B」:ケーブルに乗らず、直接バスで室堂行きは2時間待ち。
 我々は荷物を持っているので、乗換えの無い「B案」で立山駅11:40発車。ポスターの雪壁は最大20mとなっていたのに、そんなにない、せいぜい15m。帰りはバスを使わずスキー滑降するので、下見しながらバスに揺られる、どうも快適に滑降出来た。そうなのは、室堂から弥陀ヶ原までが良さそうだが、室堂に着くと約20kgの重荷にスキーを履き、雷鳥沢に向って滑る、はじめは平坦でストックで漕ぐ腕が疲れる、色とりどりのテント(約120張り)が見えると良いグレンデになりTバーリフトも動いて、雷鳥沢キャンプ場に滑り込むとすぐ6人用と1人用のテントを設営する。1人用テントポールを忘れ、ツェルトのポールを持って来てしまった。仕方なく初心貫徹T・N氏はツェルトで寝ると決込む。予定より遅いが剣御前小舎(別山乗越)へシルを着けてサブザックで向う、2500m付近でK氏が体調不良となりSLのH・I氏とともにここは引き返す。これより急傾斜で雪が腐っていて右に亀裂もある、なだれそうで大きく斜登行できないので左寄り直登する、緩くなったら別山乗越で16:45到着。雪の剣岳と霞んだ白馬岳を眺めると剣御前小舎の下から、上ルートとは1本別山側の尾根を大滑降だ、17:10出発、4人前後しながらゆっくり確実に優雅に滑降を楽しむ、途中、まだ白い雷鳥親子を発見撮影する、キャンプ場に17:45滑り込む、キャンプ場は夕食どきで外で食べている200人ほどが、我々の滑降を観望していたらしい。
 豚丼、エリンギ炒め、いわし干物、ご飯6人で3.5合、ビールで乾杯。大食いの食当は食べきれない。夜は暑かったが良く寝た。
 5/1晴れのち曇りのち雨、サブザックに必要なものを入れ、三種の神器(ビーコンON・ソンド棒・シャベル)をみんな確認しあい16:50出発。しばらく漕いで滑る、登りになるとシルを着けて一ノ越へ1時間40分程で到着、シルを外し東一ノ越へ斜滑降で行く、結構急で、下り過ぎない様に10分ほど滑ると、中間で雪が切れ、這松、岩稜、雪面が交互となり、スキーをザックに付けて歩かされると20分ほどで東一ノ越につく。ここから夢の大滑降だ、滑り出しが急傾斜でなだれ誘発に注意。右へ行くと少し緩い斜面だ。K・Kさんが転倒150mほど身体で滑るが岩もなく雪も腐っている為、大事に至らず、安心だ。平坦になるとロープウェイ黒部平駅につく、観光客に聞くと待ち時間は45分とのこと、ならば黒部湖畔まで滑ることにする、樹林をぬって黒部湖に突き出た半島の突端を目指し6人で交互に通過する、樹林の中なのに圧雪で滑り易く、実に楽しい、湖畔沿道にストンと出る。これよりスキーをザックに付け20分ほど黒部ダムまで歩く、黒部湖駅からケーブル5分で黒部平、ここよりロープウェイ17分で大観峰、ここよりロープウェイ10分で室堂につく(4800円)ここで明日は雨のため今日中に帰岡することに決定、その際、重い荷物だけをバスにのせて、空荷で弥陀ヶ原まで滑りたいため、交渉するがだめでした。雷鳥沢キャンプ場に滑り込み、テントを撤収、パッキングしていると雨がぱらついてくる、急いで重荷を担ぎ室堂に向う、ザックにスキーを付けてつぼ足で歩く人とシルを着けて歩く人とルートが別れたが、近いからよしとする。「重荷のためキツイよ」室堂に到着し17:00の最終バスで立山駅(2960円)へ全員無事下山、23:55帰岡し今年の山スキーシーズンは終了した。

感想

1982年立山に行っている、雷鳥沢に幕営、2日目に一ノ越まで山スキーにシルで登り、立山三山をスキーを担いで縦走し、別山乗越から雷鳥沢へ滑降した、3日目に一ノ越まで再び登り、タンボ平、黒部平に滑るつもりで一ノ越まで来たが、この先の情報が少なく、エキスパートが行く所と思ひ込み、怖くていけなかった。今回23年ぶりに念願の山スキールートをつアアすることが出来て、たいへんうれしく思います、ありがとうございました。